

非連続の変革 未来創る

大日本印刷 ⑨

挑戦
する企業

信頼性が強み

「電池の進化が止まることはあり得ない。次世代電池に向けた開発の手を緩めず、どんな変化にもタイムリーに対応し、提案したい」。大日本印刷（DNP）執行役員の松村有純は先を見据える。現在、世界トップシェアを握るリチウムイオン電池（LiB）の外装材「バッテリーパウチ」事業の強化に加えて、技術革新を図る。

バッテリーパウチ技術革新

バッテリーパウチは顧客の要望で電気自動車（EV）向けに1990年代に開発を開始。食品パッケージなどで培った質を保つ信頼性の高さが強み。電解液を漏らさず、高い絶縁性を保持する積層フィルムにノウハウがある。長期に安定して高品質を保つ信頼性の高さが製品を開発する。

全固体電池向け

同事業の強化に向けて、25年2月に買収したレゾナック・パッケージや米国ではパウチ型の車

電池の進化、柔軟に対応

た。車は人命に関わる製品であるため、エレクトロニクス系の厳格な品質管理も適用。2010年ごろにEVやスマートフォンの採用され、事業として飛躍した。DNPのバッテリーパウチはLiBの溶剤系の

伸びるタイミングの見定めが難しい。だが、中長期で見るとEV化は間違いないと進む」（松村）。現状、事業としては厳しい状況だが、次世代の研究開発に余念はない。その一つが全固体電池への対応だ。全固体電池を作るには、内部の固体電解質と正極・負極の密着



DNPはLiBの外装材「バッテリーパウチ」で世界トップシェアを握る。▲が重要になる。「パウチは密着のための圧力を強くかけられる点で有利。加えて、全固体電池